


一般質問通告書

次の通り質問したいので通告します。

平成 27年 8月 18日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第 5 号	質問議員	2番	藤原 浩	
件名	1. 一過性で終わらない地方創生、「真のまちおこし」を実現するために、住民協働のしくみづくりを 2. 子どもの遊び場づくりから、新たなコミュニティづくりをつくる考えは				
要 旨					
<p>1. 国は、昨年11月に地方の人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の一極集中を是正することなどを目指し、「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。山北町でも「地域住民生活等緊急支援のための交付金」を活用し、様々な事業が行われます。しかし事業内容を見ると殆どが対症療法的事業であり、山北の抱えている問題解決の、根本的な課題解決の手段には成りえないと考えます。</p> <p>「まちおこし」等、地域の活性化に効果をあげている最近の事例に共通しているのは、その多くが行政主導の事業ではなく、住民発信、住民のアイディアで実現した事業であります。そして町では、自治基本条例の中（協働の原則）で、まちづくりは、町民、町及び議会の三者の連携や協力によって推進していくことを原則としています。また町は、27年度の重点プロジェクトとして、「町民力・地域力を発揮するプロジェクト」を掲げています。事業としては、自治会活動中心の地域活動への参加・参画が出来る仕組みや、コミュニティ活動支援のチラシ配布等をあげていますが、町民力・地域力が存分に発揮される仕組み作りとしては、充分でないと考え以下の提案をいたします。</p> <p>町は、従来の自治会長等の組織の長等をメンバーに充てるやり方ではなく、人選方法を刷新し、実際に地域コミュニティやボランティアグループで成果を上げている人々、また現在活動はしていないが、過去に実績があり様々なスキルを持った人材をメンバーとして加え、小さなワークショップを多く重ね、「まちおこし」のアイディアを模索するしくみ作りを構築すべきと考えるがどうか。またその組織作りのため、そして住民が自ら考え、起案し、地域での暮らしを活性化するアイディア創出のため、人材をコーディネートする仕組みを構築する必要があると思うがどうか、問います。</p>					
<p>2. 昨年秋頃から、子育て世代の保護者の方々を中心に、山北駅利用者を中心とした地域に子どもが遊べる場所が少ない、何とかならないだろうかといったご意見を伺いました。例えば山北地域の小学生が放課後どこで過ごすのか。川村小学校（放課後児童クラブ・放課後子ども教室）、健康福祉センター、鉄道公園といった場所になるようです。いずれにしろ利用に制約があり、面積が足りない等の問題があり、子育てのハードルになっているのは</p>					

明らかです。そこで以下のような提案をいたします。

小学校は放課後の利用が可能ではあるが、一度帰宅してからではないと利用できない。また全く大人が関わっていない状態では、保護者の不安はぬぐえない。そこで、現在行っている放課後子ども教室の枠を広げ、水曜日以外の平日の放課後も、そのまま子どもが夕方まで利用出来るようにすべきと考えるかどうか、町の考えを問います。

山北町駅周辺には、公園はあるが利用者が自由に使えるスペースがない。町で駅周辺にスペースを用意し、公園とせずに空き地として住民に提供し、資材等を提供し、住民管理のもと利活用していただくと、子どもの遊び場以外に地域のコミュニティスペースとしての価値も生まれると考えられる。町の考えを問います。